

みやこ
京の環境共生推進計画
環境レポート

—平成23年度版—

(案)

環境への負荷の少ない持続可能なまち
「環境共生型都市・京都」

京 都 市

はじめに

環境レポートは、「京の環境共生推進計画」の進ちょく状況等を、市民・事業者の皆様にお伝えし、くらしと環境とのつながりをもっと身近に感じていただくことを目指して毎年発刊しています。

『環境レポート』の特徴

- 環境指標の最新の値に基づき、環境の状況を分析しています！
- 身近に取り組める事業やイベント、施策のトピックスを紹介しています！

京都市の環境の現況

- 😊 温室効果ガス排出量（二酸化炭素排出量を含む）は平成 2 年（基準年）の量から大きく減少（📖4, 12 ページ）
- 😊 太陽光発電システム導入量は大きく増加（📖11 ページ）
- 😊 水質や自動車騒音などは大きく良化するなど概ね良好な状態（📖14 ページ）
- 😞 騒音苦情は 3 年連続で 200 件を超過し、カラオケなどの近隣騒音が増加（📖14 ページ）
- 😊 市街地の緑は少しずつではありますが、着実に増加（📖15 ページ）
- 😊 森林保育・造林面積は平成 17 年度以降、減少していましたが、平成 21 年度は大きく増加（📖16 ページ）
- 😊 一般廃棄物総排出量は、市民の皆様のご協力により、年々減少しており、市受入量でみると、平成 12 年度（ピーク時）の 6 割まで減少（📖6, 18 ページ）
- 😊 使用済みてんぷら油の回収拠点数・回収量は年々増加（📖17 ページ）

😊：良い状況，😊：どちらともいえない，😞：やや悪い状況

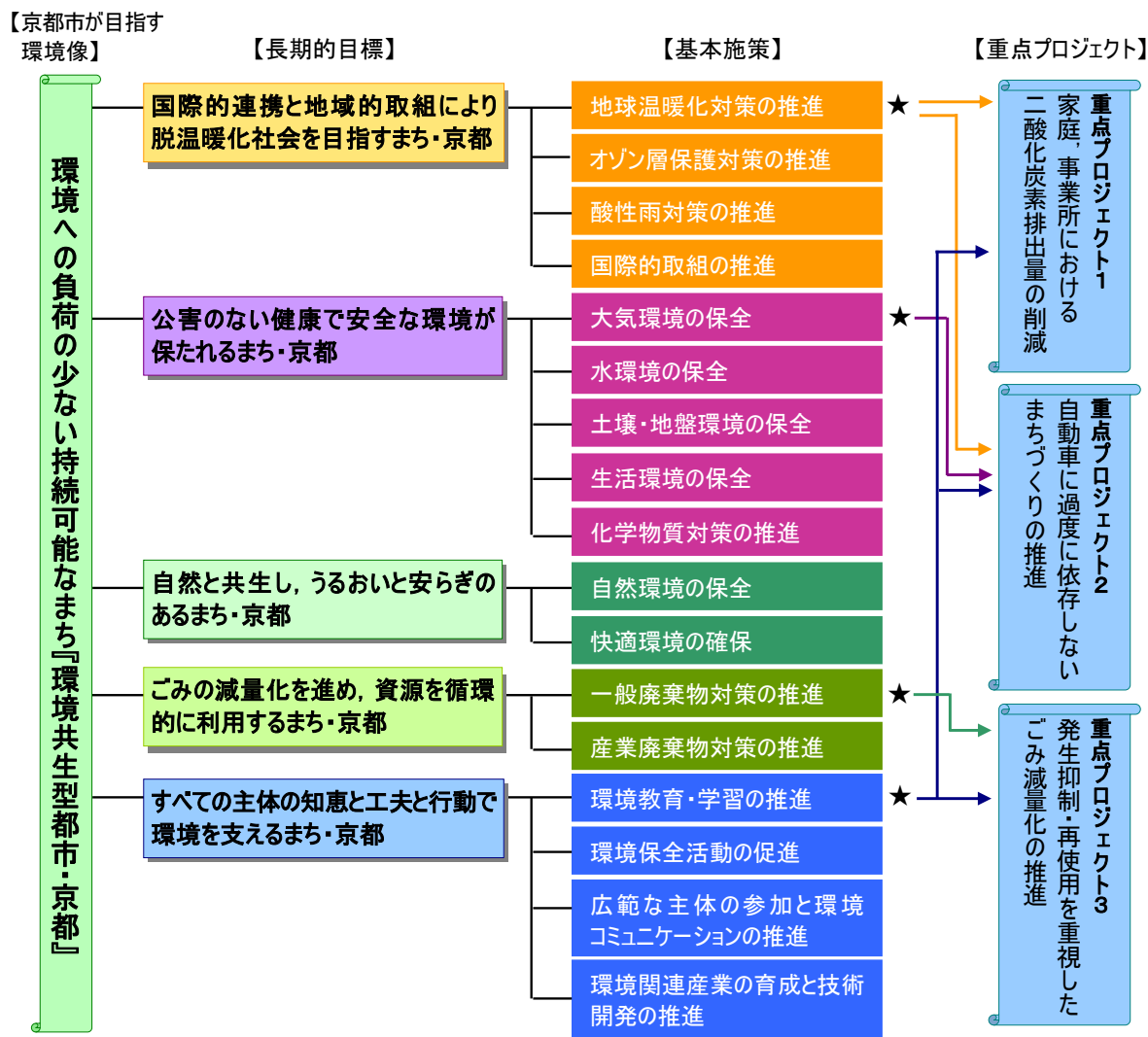
目次

計画の基本的事項	2
重点プロジェクトの進ちょく状況	3
計画の中間点検について	3
環境関連ニュース	7
各区の主な取組	9
長期的目標の進ちょく状況	11
ご存知ですか 市の取組	21
お問い合わせ先	23

京の環境共生推進計画とは

- ◆ 「京都市環境基本条例」の規定に基づき策定した、環境の保全に関する個別分野の施策の方向性を示す環境行政のマスタートプランとして位置付けられるものです。
- ◆ 計画の期間は平成 18 年度～27 年度までの 10 年間

計画の体系



- ◆重点プロジェクトは、京都市をとりまく環境の現況や市民の関心から、優先的に取り組む分野を選定したものです。

計画の推進

計画（Plan）の着実な推進を図るために、計画の目標実現に向けた施策・事業の状況等（Do）を定期的に評価し（Check）、適切に見直し推進する（Action）、とした PDCA サイクルの手続きに沿って実施しています。

進捗度分類について

環境指標のうち目標値をもつ数値目標とプロジェクト目標について、下表のように進捗度を評価しました。

4段階評価	◎（目標よりも進んでいる）	○（ほぼ目標どおり）	△（目標よりも遅れている）	×（目標よりも大幅に遅れている）
年々増加・減少する項目	翌年度の年目標値以上	前年度の年目標値以上 翌年度の年目標値未満	3年度前の年目標値以上 前年度の年目標値未満	3年度前の年目標値未満
京都市環境保全基準	80%以上	60%以上 80%未満	40%以上 60%未満	40%未満

計画の点検状況

環境の状況や社会経済状況の変化などを踏まえ、平成 22 年度に中間点検を実施しました。

「京都市が目指す環境像」や「長期的目標」、計画の体系等は修正せず、環境指標の項目や目標値などの一部を見直しました。

詳細はホームページ（京都市情報館）をご覧ください。

平成 23 年度第 1 回 京都市環境審議会（平成 23 年 7 月）資料

「京の環境共生推進計画の中間点検報告」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000105/105507/shiryo2.pdf>

【主な修正内容】

太陽光発電設備の発電出力

新規設定

再生可能エネルギーの普及度合を示す「太陽光発電設備の発電出力」を環境指標として設定しました。

平成 20 年度において 8.2 千 kW（約 1950 世帯の年間電気使用量に相当）だった発電出力を、平成 32 年度に 160 千 kW にすることを目標とします。

※1 1kW 当たりの発電量は 1,000kWh、電気使用量 4,193kWh/世帯を用いた

市街地の緑被率

名称変更・再設定

指標名を「市街化区域の緑被率^{※2}」から、市街化区域の緑に加え、市街化区域に囲まれて島状、線状にある市街化調整区域の一部の緑を含めた区域を対象とした「市街地の緑被率」に変更し、目標値を「現状の緑被率 35%から 37%へ」に設定しました。

※2 空から見た、区域に占める緑で覆われた土地の割合。平面的な緑を算定する指標。

使用済てんぷら油の回収拠点数・回収量

新規設定

環境保全に対する市民意識の向上及び普及に加え、市民と行政が一体となり、地域コミュニティの活性化の拡大を図るため、環境指標として設定しました。



エコイベント登録数

新規設定

ごみを減量するため、祭りや行事等を行う際には、使い捨て容器を使用せず、リユース食器を使用する「エコ化」を進めていることから、環境指標として設定しました。



エコちゃん



めぐるくん

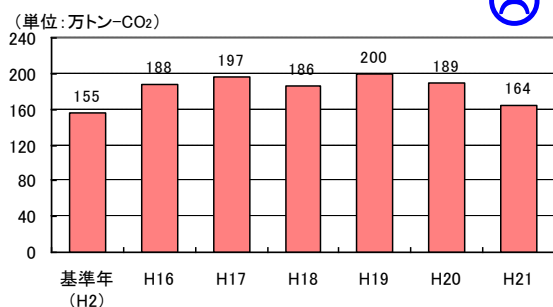


こごみちゃん

二酸化炭素の排出量は増加傾向にありましたが、平成2年(基準年)と同程度まで減ってきています。

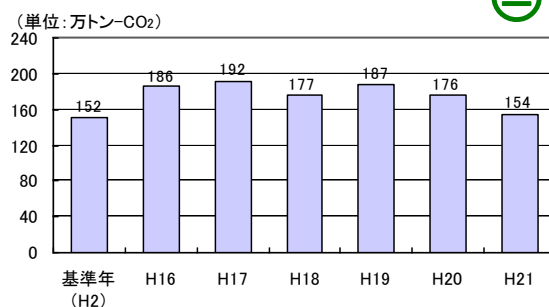
民生・家庭部門の二酸化炭素排出量の推移

平成21年度は164万トンであり、基準年の155万トンから9万トン、5.9%増加



民生・業務部門二酸化炭素排出量の推移

平成21年度は154万トンであり、基準年の152万トンから3万トン、1.9%増加



Q. 増加し続けて地球温暖化が進むと、私たちの生活はどうなるんだろう？

A. 気象・人体 猛暑日や熱帯夜が増え、熱ストレスによる死亡リスクや熱中症患者が増加し、病人やお年寄り、子どもの健康に悪影響をもたらすおそれがあります。

農業 気候変動が農作物の生産に大きな影響を与えると予測されており、地球レベルで食糧の供給に深刻な影響が生じるおそれがあります。

自然生態系 急激な気候変動に適応できない動植物の数が減少し、最悪の場合は種の絶滅をもたらすおそれが高まります。

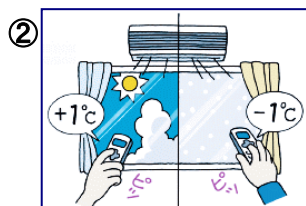
東日本大震災後、エネルギー利用への関心が高まっています

省エネ・省資源のくらしを心掛けよう！

私たちの生活に不可欠な電気などのエネルギーを作る際や自動車を利用した際に、石油などの化石燃料が使われ、二酸化炭素などの温室効果ガスが発生しています。東日本大震災に伴う原子力発電所の事故を契機に、エネルギーの確保やその使い方が大きな課題となっています。

地球温暖化を防止するためには、私たち一人ひとりが省エネ・省資源の生活を実践し、温室効果ガスを減らすことが大切です。

- ① 使っていない部屋の電気は消しましょう。
- ② 室温を調整し、冷房時は28℃、暖房時は20℃に設定しましょう。
- ③ 買い物に行くときは、必ずマイバッグを持参し、レジ袋や過剰包装を断りましょう。
- ④ 自動車の使用を減らし、公共交通機関や自転車を利用しましょう。
- ⑤ 家電製品を買い替える際には、省エネ性能の高い製品を選びましょう。



エコを意識した室温設定



過剰包装を断りましょう



車の使用を減らしましょう



◎環境家計簿をつけて、どれくらい省エネできたかチェックしてみよう！

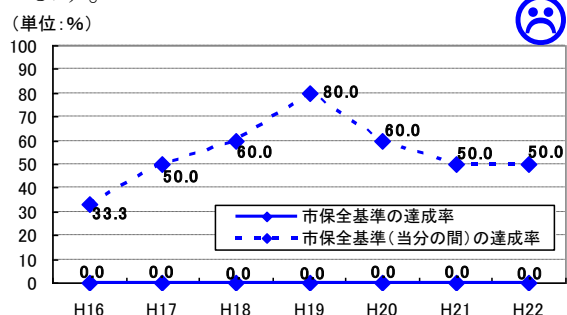
インターネット版環境家計簿は <http://www.doyoukyoto.com>

購入時は省エネラベルを確認

車を利用しすぎると空気が汚れたり、地球温暖化が進行してしまいます。

大気中の二酸化窒素の市環境保全基準達成率の推移

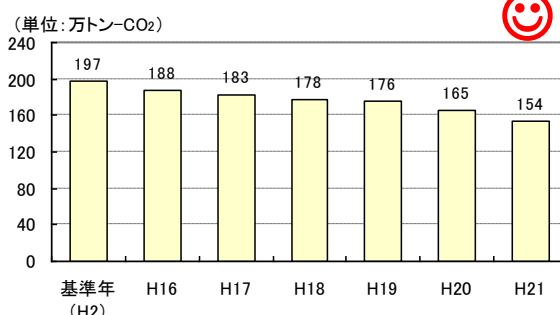
自動車の排気ガスが主な原因の一つである二酸化窒素濃度の市環境保全基準は全測定局で未達成が続いています。



※市環境保全基準は1時間値の1日平均値が0.02ppm以下、ただし、当分の間、0.04ppm以下

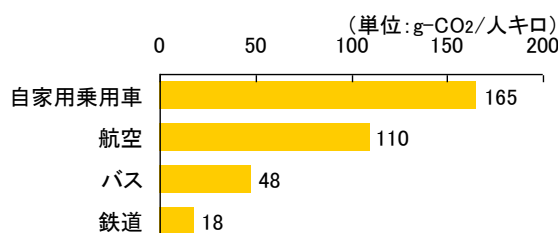
運輸部門の二酸化炭素排出量の推移

二酸化炭素排出量の約9割が自動車から排出され、基準年から約22%減少しています。

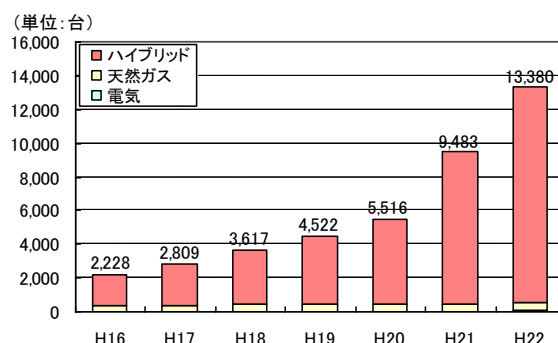


車を使う代わりに公共交通を利用すれば、もっと快適な環境に変えることができます！

1人を1キロ輸送するときに排出される二酸化炭素量を比べると、鉄道は自家用乗用車の1/9、バスは自家用乗用車の1/3以下しか排出しません。



低公害車の登録台数は年々増加しています。



「パーク アンド ライド」～マイカーから公共交通に乗り換えて市内を楽しもう～

パークアンドライドとは、マイカーから公共交通に乗り換えて目的地まで移動する取組で、市内への自動車流入抑制と環境負荷の軽減に効果があります。現在、近隣自治体や市周辺部の駐車場事業者等との連携のもと、市内外13エリア31駐車場で実施しています。

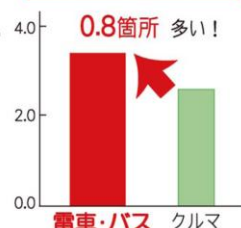
渋滞や駐車場探しに煩わされることなく、公共交通を使って、「ほんまもの」の京都の魅力を満喫しよう。



〈詳しくはこちら〉

クルマでは、「移動」ばかりに時間がとられて、結局訪れる箇所が減ってしまいます。実際、電車等を使う人は、クルマを使う人よりも、約1箇所近くも多く観光地を巡ることが知られています。

移動手段と滞在箇所数



出典：H18 京都を中心とした歴史都市の総合的
魅力向上調査に係る観光客の動向調査

Q.「カーシェアリング」って何？

A. 同じ車を友達やご近所の方で共同利用することです。

電気自動車（EV）の普及を目的に、電気自動車を市民、事業者の皆様に無料で利用いただくカーシェアリング事業を実施しています。

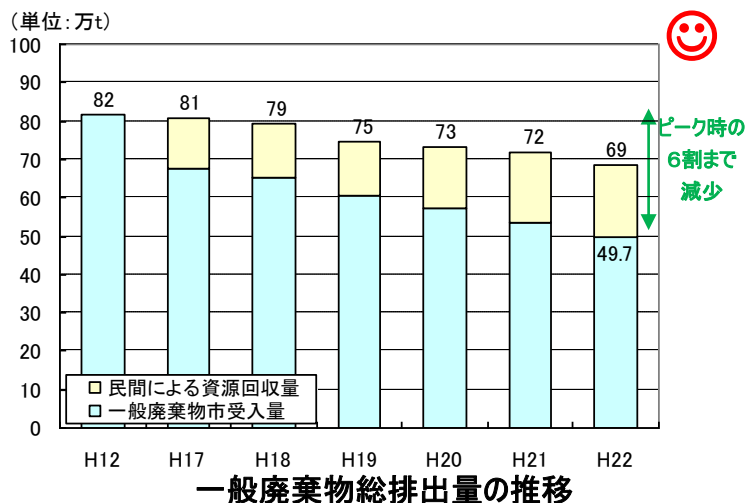
平成22年度は市民の皆様の利用が1,518回ありました。詳しくは21ページをご覧ください。

ごみは減ってきています。でも次の世代まで美しい京都を引き継いでいくには

市民の皆様の家庭ごみ有料指定袋制へのご協力等により、平成 18 年以降、一般廃棄物総排出量は年々減少しており、市受入量でみると、平成 12 年度（ピーク時）の 6 割まで減少しています。

しかし、次の世代に美しい京都を引き継いでいくためには、さらなるごみの減量・リサイクルが必要です。

京都で暮らす、働く、学ぶ、そして、京都に集う一人ひとりの皆さんの力を結集し、ごみを減らすことで、『低炭素社会』、『循環型社会』を実現しましょう。



Q. でも、ごみを減らすと、どんな良いことがあるの？

A. 1. 温室効果ガスの削減にもつながります。

将来世代に青く美しい地球を引き継ごう！

美しい環境を引き継いで、孫の世代まで貴重な最終処分場を使いましょう！

2. クリーンセンターを現在の 4 工場から 3 工場体制に見直すことができます。

建替え経費 400 億円、運営経費 8 億円を節約できます。

3. 最終処分場「エコランド音羽の杜」をより長く使用できます。

今ある最終処分場は完成までに 22 年の歳月と 520 億円以上もの経費がかかっています。



Q. 家庭ごみ有料指定袋の収入は何に使われているの？

A. 3つの分野に関する事業に役立てています

ごみ減量・リサイクルの推進

- コミュニティ回収を実施する団体に助成 (22 ページ)
- リユース食器の利用などイベント等のエコ化の推進 など

まちの美化の推進

- カラスや風によるごみの散乱を防ぐ防鳥用ネットの貸出し
- 不法投棄に悩む地域団体に対して監視カメラを貸与 など

地球温暖化対策

- 住宅用太陽光発電システムの設置費用を助成
- 全市立小学校で「こどもエコライフチャレンジ推進事業」を実施 など

手つかず食品をなくしましょう

家庭から出る生ごみの約 1/6 は、まったく口をつけられないまま捨てられた食品、いわゆる「手つかず食品」です！

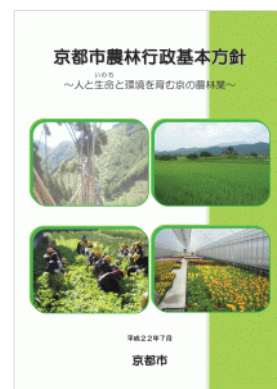
- こまめに食材を確認しましょう。
- 買い物前に必要なものをメモして、計画的な買い物を。



京都市の主な「環境」関連ニュース

平成22年

- 4月
 - ☞ **各区役所・支所に「エコまちステーション」設置**
地域における総合的な環境行政の拠点窓口をご活用ください！
 - ☞ **「上京リサイクルステーション」設置**
土曜・日曜・祝日も「てんぷら油」や古紙類、古着などを回収しています！
 - ☞ **「北部・南部環境共生センター」設置**
公害苦情相談やごみの減量指導などを実施しています！
- 5月
 - ☞ **「地下鉄 5 万人増客」キックオフ**
地下鉄 1 日 5 万人の増客目標の達成に向け、増客推進本部を設置！
 - ☞ **「京町家」の持つ文化的価値を世界が認知**
ワールド・モニュメント財団から 25 万ドルの支援
- 6月
 - ☞ **「京のいきもの発見ガイド」発行**
～京のいきもの発見！！～ 『みんなで探そう 京都のいきもの』
- 7月
 - ☞ **「次世代 EV 京都プロジェクト」設立**
日産自動車、三菱自動車工業、堀場製作所との共同プロジェクトを立ち上げ！
 - ☞ **「京都市農林行政基本方針」策定**
今後 10 年間の本市の農林業が進むべき方向が明らかに
- 11月
 - ☞ **「四条通の交通社会実験」実施（～3 月）**
一般車両の通過抑制、バスやタクシー乗場の集約などを順次実施
- 12月
 - ☞ **「電車・バスでまわる「歩くまち・京都」京都フリーパス」発売**
京都市内の約 200 箇所で優待が受けられます！



平成23年

- 2月
 - ☞ **「EV（電動）バス運行に関する実証実験」実施**
三菱重工業製 EV バス 1 台を京都市交通局が循環路線を運行し、EV バスの走行性能や機能性を調査
 - ☞ **「京都ごみ減量・分別ハンドブック」を全戸配布！**
皆様のごみ減量の取組を情報面から支えます
- 3月
 - ☞ **「京都市地球温暖化対策計画（2011-2020）」策定**
温室効果ガスを平成 2 年度に比べ平成 32 年度までに 25%削減、平成 42 年度までに 40%削減という新たな削減目標の達成に向けた計画を策定
 - ☞ **「バイオマスGO! GO! プラン」策定**
バイオマス(生ごみ、木くずなどの生物由来の資源)の活用を推進します！

- 4月 ④ **改正「京都市地球温暖化対策条例」施行**
 新たな削減目標達成に向け、本市が推進する施策や事業者や市民等による対策等について規定の拡充
- 5月 ④ **「京都市三山森林景観保全・再生ガイドライン」策定**
 三山の山並みの景観を守り続けます！
- ④ **「第1次 京のみどり推進プラン」策定**
 「京都市緑の基本計画」の具体的な進捗を図ります！
- 6月 ④ **小型家電リサイクルモデル事業の拡充**
 区役所・支所などでの回収品目拡大！
 11月には、まち美化事務所においても電池やライター、古着類などを回収品目拡大！
- 8月 ④ **「KYOTO エコマネー」創設**
 マイボトル持参でポイントをためて、商品と交換できます！
- ④ **低炭素のモデル地区「エコ学区」事業開始**
 学区単位に、低炭素社会実現に向けた先進的な取組を行います！
- ④ 温室効果ガス削減量を「取引」する
「DO YOU KYOTO? クレジット」創設
 省エネ活動に奨励金を交付
- ④ **京都市自動車環境対策計画を策定**
 二酸化窒素の市環境保全基準達成に向けた取組などを行います！
- 9月 ④ **「京のいきもの発見ガイド 秋・冬版」発行**
 平成23年度は夏版に続き、秋・冬版を発行！
- 10月 ④ **「第6回 3R推進全国大会 in Kyoto」開催**
 3R行動の大切さを身近に感じ、環境保全行動を進めるきっかけを発信
- 11月 ④ **大型ごみのリユースモデル実験を開始**
 タンス、棚、テーブルなどを分別収集し、展示・販売します！
- ④ **リユース食器「お試しキャラバン」実施**
 中央卸売市場第一市場「鍋まつり」で「お試しキャラバン」を実施



各区の主な取組

きょう

京からみんなで環境にええことしましょ！

北区 北区民環境セミナー

区民の皆様が環境問題に取り組むきっかけづくりとして、7月に自然観察会を行いました。上賀茂神社から深泥池まで、講師の解説を聞きながら散策し、身近な自然環境について学びました。



上京区 「みんなで花を咲かそう」ボランティア活動

区役所玄関前に季節の草花がきれいに植えられ、毎朝、水やりなどの手入れを行い、庁舎前が彩り豊かに保たれました。

通行人や来庁される方たちに、まちの環境美化についての意識を高めてもらおうと活動が続けられています。



左京区 左京区民ふれあいまつり2011

P Rブースでは電動式生ごみ処理機の見本展示や家庭の省エネ相談所を設けるなど環境啓発を行いました。模擬店ではリユース食器を使用し、ごみ減量に取り組みました。



中京区 京都みつばちガーデン推進プロジェクト

京都学園大学バイオ環境学部や市衛生環境研究所との連携により、中京区役所屋上にニホンミツバチの巣箱を設置しました。

ボランティア団体「京・みつばちの会」と共同で、花の受粉を助けるミツバチを通して、新たな視点で、まちなか緑化を進めていきます。



東山区 夏祭りでのエコの取組

各学区の夏祭りに出店した模擬店でリユース食器を使用し、区民の皆様との共汗によってごみ減量に取り組みました。



山科区 山科区2万人まち美化作戦

ごみのない美しいまちを目指し、各学区自治連合会が中心になり、学区内の道路・河川（土手・遊歩道など）の一斉清掃や門掃き、電柱等の違反広告物の撤去などを実施しました。



下京区 駐車を縮小し、駐輪場を拡充

駐車を縮小し、駐輪場を拡充することで、市民の皆様の自転車や公共交通機関の利用を促し、低炭素社会の実現を目指す取組を進めています。駐輪場は、周辺の施設を利用される皆様も一定時間までは無料で利用ができます。



南区 南区「打ち水」作戦

ヒートアイランド対策をはじめ環境にやさしい取組の推進を呼びかけるため、8月1日の「水の日」に合わせて、区内の行政機関で構成する「南区行政推進会議」の主催で「打ち水」を行いました。

実施前後で気温が3度下がり、打ち水の効果を実感しました。



右京区 区民オリエンテーリング・クリーン大作戦

右京区制80周年記念事業として、歩いて楽しく美しいまち右京を目指して、オリエンテーリングを開催しました。健脚コースと初心者コースの2コースを設け、参加者はごみ拾いをしながらクイズやゲームを楽しみ、秋色の嵯峨野路を満喫しました。



西京区

「DO YOU KYOTO? 西京デー」ゆかたで go!

7月16日と8月16日を「DO YOU KYOTO? 西京デー」とし、無料でゆかたの着付けを行い、公共交通機関で祇園祭宵山や五山送り火に出掛けていただく取組を実施しました。

7月16日は阪急桂駅周辺で、京都市立芸術大学の学生の皆さんが、西京区の風景などを描いた色鮮やかな浴衣でPR活動を行いました。



伏見区 稲荷・砂川一斉清掃

6月、11月に、小学生から大学生、各種団体まで幅広い市民の皆様が稲荷・砂川一斉清掃を実施しました。



緑のカーテン（教育委員会事務局）

環境教育の取組として、子どもたちが植物に親しみながら、緑のもたらす涼しさなどを体感できる「緑のカーテン」の整備を進めています。

平成23年度は全校の8割を超える232校で実施しました。



長期的目標の進ちょく状況

長期的目標1 国際的連携と地域的取組により脱温暖化社会を目指すまち・京都

Plan（計画・目標）

京都議定書誕生の地である京都において、私たちの日常生活や通常の事業活動から生じる環境への負荷が、地球規模の環境問題に多大な影響を与えていることを理解し、環境負荷を低減するための取組を推進します。

エネルギーの省力化、新エネルギーの導入などを促進し、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出を抑制することにより、脱温暖化型の地域社会を目指します。

国際機関との連携により、地球温暖化対策をはじめとした環境保全全般に係る取組を推進します。

基本施策

1-1 地球温暖化対策の推進

1-2 オゾン層保護対策の推進

1-3 酸性雨対策の推進

1-4 国際的取組の推進

【地球温暖化対策の推進の目標値】

「京都市地球温暖化対策条例」(改正前)に規定する「平成22年までに温室効果ガスの排出量を基準年である平成2年の90%に削減する」ことを目標値とします。

基準年：平成2(1990)年

温室効果ガス排出量：772 万トン

目標年：平成22(2010)年

温室効果ガス排出量の目標量：695 万トン

(基準年比 10%削減)

Do（実施）

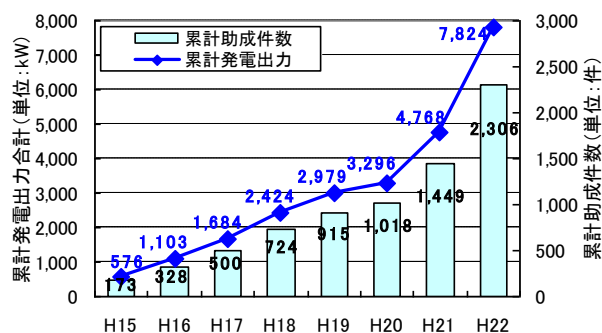
新地球温暖化対策計画の策定

平成22年10月の地球温暖化対策条例の全部改正を踏まえ、京都市地球温暖化対策計画(2011~2020)を平成23年3月に策定しました。



太陽光発電システムの普及促進

温室効果ガスの排出を抑制するため、住宅用太陽光発電システム設置に助成しています。平成22年度までの累計発電出力は7,824kW(約1850世帯の年間電気消費量に相当)、前年度から約1.6倍増加しています。



「EVバス」の実用化を目指して、実証実験を行いました

低炭素社会を目指し、「歩くまち・京都」の実現と電気自動車(EV)など次世代自動車への転換を進めるため、平成23年2月にEVバス運行に関する実証実験を行いました。



コラム ノンフロン製品を選びましょう

オゾン層を破壊する特定フロン(CFCなど)は、国際的な取り決めにより、現在は使用・製造などが禁止されています。

しかし、特定フロンに代わり普及した代替フロン(HFCなど)は、オゾン層への影響は小さいものの、地球温暖化への影響は非常に大きく、二酸化炭素に比べて数百倍から一万倍超になります。

フロンに代わり、オゾン層を破壊せず、地球温暖化にも影響の小さい“ノンフロン”の使用や製品が広がっています。

主な環境指標の推移

Check (点検)

環境指標		単位	指標区分※1	基準値 (H2)	実績値 (H21)	目標値 (H22)	進ちょく度及び対基準値比	
温室効果ガス排出量※2		万トン	↓	772	618	695	◎	-19.9%
二酸化炭素排出量		万トン	↓	725	585	660	◎	-19.3%
部門別二酸化炭素排出量	産業部門	万トン	↓	195	94	118	◎	-51.8%
	運輸部門	万トン		197	154	197	◎	-22.1%
	民生・家庭部門	万トン		155	164	155	×	5.9%
	民生・業務部門	万トン		152	154	156	◎	1.9%
	廃棄物部門	万トン		25.8	18.8	33.7	◎	-27.1%
公共交通機関利用者数		百万人	↑	515.6(H16)	520.5	—	—	0.9%
新エネルギー導入量（公共施設における太陽光発電システム導入量）		kW	↑	446.4 (H16)	1,249.3 (H22)	—	—	179.9%
太陽光発電設備の発電出力		千kW	↑	8.2(H20)	8.2(H20)	160(H32)	—	—
フロン回収量（CFC 対象）		kg	↑	4,796(H16)	420(H22)	—	—	—
海外からの環境施設視察者数		人	↑	231(H16)	1,081(H22)	—	—	368.0%

※1：環境指標の表中に示す「指標区分」は、環境指標の方向性（ただし、長期的目標2に掲げる市環境保全基準達成率については達成状況を踏まえ区分）に基づき以下のように区分しています（以下の表同じ）。

「↑」：増加する（高くなる）ことが良い指標 「↓」：減少することが良い指標 「→」：維持することが良い指標

※2：温室効果ガス排出量は、それを削減する効果のある量（森林による二酸化炭素吸収量、ごみ発電と太陽光発電による削減効果量）10.9万トンを考慮しない値です。

Action (改善・見直し・更なる前進)

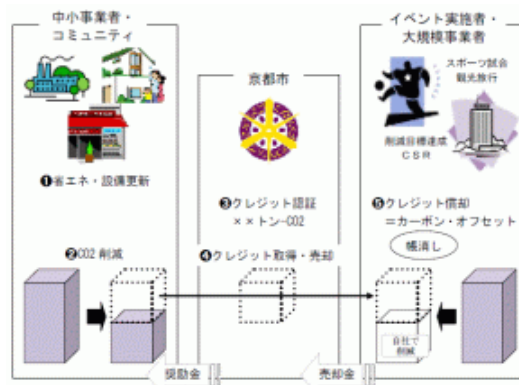
「DO YOU KYOTO?」って何？

「環境にいいことしていますか？」という意味の合言葉。「京都議定書」誕生の地としての誇りと責任の下、一人ひとりがエコ活動を実践し、環境にやさしい取組の輪を広げて行きましょう。



DO YOU KYOTO? クレジット制度

「DO YOU KYOTO? クレジット制度」とは、中小事業者や市民・商店街等が削減した二酸化炭素量(CO2)を、取引可能なクレジットとして京都市が認定し、地域のイベント等に活用する制度です。



エコ学区

各区役所・支所管内から1箇所ずつ、低炭素社会実現に向けた先進的な取組を行っていただく「エコ学区」。

今後2箇年にわたり、省エネをはじめ、ライフスタイルの転換や地域力の向上に資する様々な事業に取り組んでいただきます。



長期的目標2 公害のない健康で安全な環境が保たれるまち・京都

Plan（計画・目標）

大気、水、土壌・地盤などを良好な状態に保持・保全するとともに、自動車交通公害や生活排水による水質汚濁などの都市生活型公害、更には化学物質等による新たな環境問題への適切な対応など、環境汚染の未然防止と拡大抑制に努め、市民が安心して暮らすことのできる公害のない健康で安全な環境を確保します。

基本 施策

2-1 大気環境の保全

2-2 水環境の保全

2-3 土壌・地盤環境の保全

2-4 生活環境の保全

2-5 化学物質対策の推進

京都市環境保全基準とは

市民の健康で快適な生活・自然環境を確保するために、大気汚染、水質汚濁、地下水汚染、騒音、土壌汚染、悪臭、地盤沈下、緑及びダイオキシン類の9項目について設定しています。このうち、悪臭、地盤沈下及び緑の3項目は国の環境基準で定められていない本市特有のものであり、また、大気汚染の二酸化窒素等は国よりも厳しい基準を設けています。

Do（実施）

河川水質測定

河川水質について、市内各地で測定を実施



分析する河川水の採取状況

エコドライブの推進

エコドライブを実践すると、同じ車で同じ距離を走行しても、1～2割の燃費が改善できます！

市民を対象にエコドライブ教室を実施し、事業者を対象に「エコドライブ推進事業所」の登録を呼びかけました。



一般環境大気測定

二酸化硫黄、二酸化窒素等について、市内16局で年間を通じて自動測定を実施



市役所局(市役所屋上)

騒音測定

自動車騒音、新幹線騒音、一般環境騒音等について、市内各地で測定を実施



騒音の測定状況

主な環境指標の推移

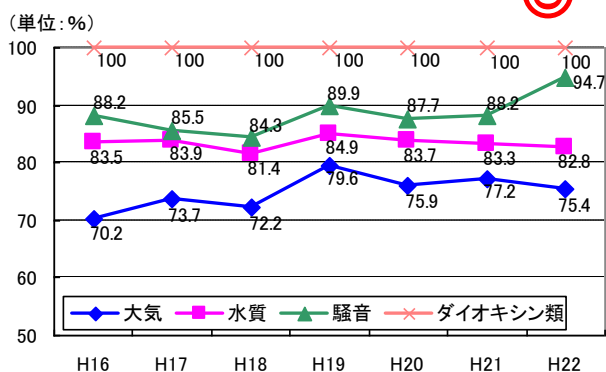
Check (点検)

環境指標			単位	指標 区分	基準値 (H16)	実績値 (H22)	目標値 (H22)	進ちょく度及 び対基準値比	
大気汚染に 係る市保全 基準達成率	二酸化硫黄	一般局※	%	→	100.0	100.0	100.0	◎	—
		自排局※	%		100.0	100.0	100.0	◎	—
	二酸化窒素	一般局	%	↗	0.0	0.0	100.0	×	—
		自排局	%		0.0	0.0	100.0	×	—
	二酸化窒素 (当分の間)	一般局	%	↗	70.0	90.0	100.0	◎	28.6%
		自排局	%		33.3	50.0	100.0	△	50.0%
	一酸化炭素（自排局）		%	→	100.0	100.0	100.0	◎	—
	浮遊粒子状物質	一般局	%	→	100.0	100.0	100.0	◎	—
		自排局	%		100.0	100.0	100.0	◎	—
	光化学オキシダント（一般局）		%	↗	0.0	0.0	100.0	×	—
降下ばいじん（一般局）		%	→	100.0	100.0	100.0	◎	—	
水質汚濁に係る市保全基準達成率（BOD）			%	↗	97.1	100.0	100.0	◎	2.9%
生活排水処理率（公共下水道、合併浄化槽等）			%	↗	99.6(H17)	99.7	100	◎	0.1%
透水性舗装延長			km	↗	10.1	15.6	10.0	◎	55.1%
一般騒音に係る市保全基準達成率			%	↗	61.1	71.4	100.0	○	16.9%
自動車騒音に係る市保全基準達成率			%	↗	88.2	94.7	100.0	◎	7.4%

※「一般局」とは一般環境大気測定局を、「自排局」とは自動車排出ガス測定局を略したものです。

市環境保全基準達成状況の推移

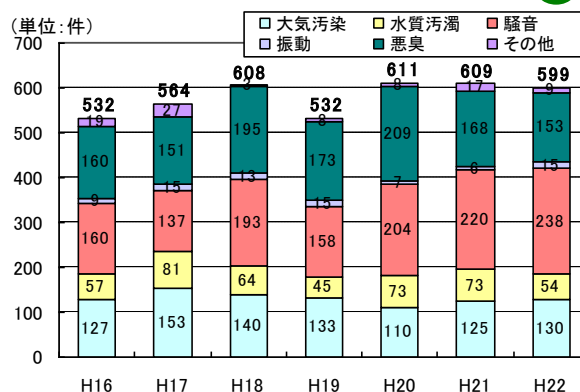
長期的には各分野とも概ね良化傾向で推移しています。



※各分野の測定物質全項目中の達成項目比率を表しています。

公害苦情件数の推移

都市型生活特有の近隣騒音 (カラオケ等) や悪臭が多くなっています。



Action (改善・見直し・更なる前進)

クルマのかしこい利用を進める

京都市自動車環境対策計画(2011-2020)を策定し、取組を推進

自動車排ガスが主な原因の一つである二酸化窒素濃度を改善し、二酸化窒素の市環境保全基準達成に向けて、京都市自動車環境対策計画を策定しました。

以下の3つの視点に基づく取組を進めます。

- 視点1 人と公共交通優先の歩いて楽しいまち
- 視点2 自動車とかしこくつきあうまち
- 視点3 エコカーへの転換が進むまち



主な環境指標の推移

Check（点検）

環境指標	単位	指標区分	基準値(H17)	実績値(H22)	目標値(H37)	進ちょく度及び対基準値比	
森林面積	ha	→	40,744(H16)	61,024(H21)	—	—	49.8%
森林保育・造林面積	ha	↗	928(H16)	1,107	—	—	19.4%
耕地面積	ha	↗	2,805(H16)	3,224	—	—	14.9%
自然体験学習の場利用者数	人	↗	148,006(H16)	149,450	—	—	1.0%
人口1人当たり公園等面積	m ² /人	↗	4.56	4.70	5.35(H27) 10	×	3.1%
保存樹・保存樹林数	件	→	40	38	—	—	-5.0%

Action（改善・見直し・更なる前進）

第1次 京のみどり推進プランの策定

京都市緑の基本計画の実施計画である「第1次京のみどり推進プラン(計画期間：平成23～27年度)」を策定しました。

人々の緑に関する満足度を高めていくため、平面的に緑を増やすだけでなく、軒下や路地の緑や街路樹の下の草花など、身近な緑を増やすことを目指し、『市内の緑視率（人の目の高さにおける、目に見える範囲の緑の割合）10%以上の確保を目指す』ことなどを目標に掲げました。

【その他の目標】

市街地の緑被率 36%

市民一人当たりの公園等面積

5.35 m²/人

など



森林整備に関する取組

市域面積の約4分の3を占める豊かな森林が持つ二酸化炭素吸収機能の活性化と森林資源の有効利用を図るため、森の力活性・利用対策による間伐を中心とした森林整備を進めています。



林内路網と高性能林業機械による間伐材の搬出

地域産材利用の普及

京都市域産材の需要を喚起するため、京都市認証マーク「みやこ杉木」を明示しています。



また、京の山杉人工房や京都北山杉の里総合センター（下写真）を活用して地域産材の普及に努めるとともに、消費者ニーズに対応できる供給体制、情報提供の仕組みづくりを進めています。

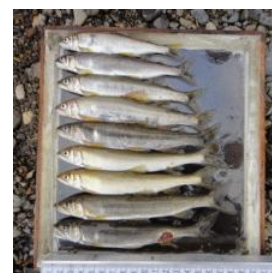


鴨川の自然の恵みを育む協働事業

天然アユなどの生き物が生育しやすい環境づくりに取り組む協働組織「京の川の恵みを活かす会」では、仮設魚道の設置、天然アユの遡上数調査などを実施しました。



龍門堰に手づくり魚道を試験設置
(平成23年5月)



桂川で採捕した親アユ
(平成23年11月)

長期的目標4 ごみの減量化を進め、資源を循環的に利用するまち・京都

Plan（計画・目標）

京都の精神文化である、「始末」という考え方や、「もったいない」という心を大切に、今日の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済活動や生活様式を見直し、ごみの発生抑制や資源の循環利用、廃棄物の適正処理等を推進することにより、限りある資源を将来の世代に残せるよう有効に利用し、環境への負荷が少なく持続的に発展することが可能なまちを目指します。

基本 施策

4-1 一般廃棄物対策の推進

4-2 産業廃棄物対策の推進



Do（実施）

「京都ごみ減量・分別ハンドブック」を 全戸に配布

【主な内容】

- ・ごみ減量のために家庭で取り組めること
- ・ごみ分別・出し方のルール
- ・地球温暖化対策について



事業者の皆さんへ

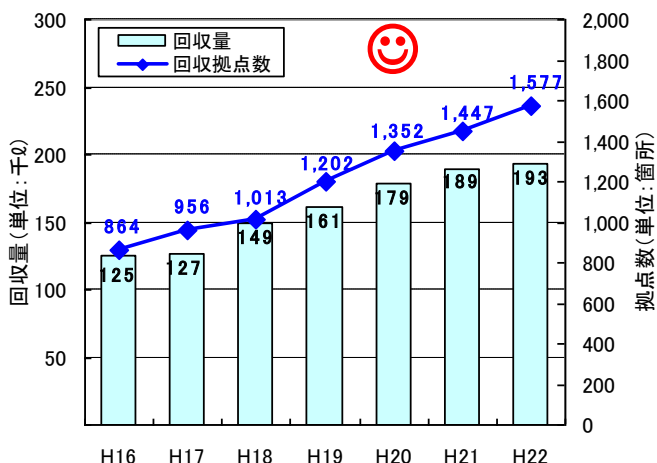
ごみの分別パンフレットを発行

ごみ半減プランに掲げる目標を達成するためには事業ごみの減量対策が必要です。そのため、市内の事業者を対象に、廃棄物排出のルールや分別・再資源化の可能な品目を掲載したパンフレットを発行しました。



使用済てんぷら油の回収

家庭で使用されたてんぷら油を回収し、ごみ収集車や一部の市バスの「環境にやさしい燃料」として使用する、バイオディーゼル燃料化事業を実施しています。平成 19 年度には助成金制度を創設し、平成 22 年度末現在、1,577 拠点での取組により、約 19 万 3 千リットルのてんぷら油を集めていただきました。



民間業者が収集するごみは必ず透明袋で！

資源ごみの分別・資源化と、ごみの適正排出を推進するため、民間業者（一般廃棄物許可業者）が収集するごみは、透明袋で出していただくよう義務化しました。

無色透明袋

白色透明袋



京都市バイオマスGO! GO! プランの策定

（京都市バイオマス活用推進計画 2011-2020）

再生可能エネルギーの一つであるバイオマス（生ごみ、木くずなどの生物由来の資源）の活用を推進します。

自然環境に気遣う「環境にやさしいまち」実現するための道筋を示しています。



主な環境指標の推移

Check (点検)

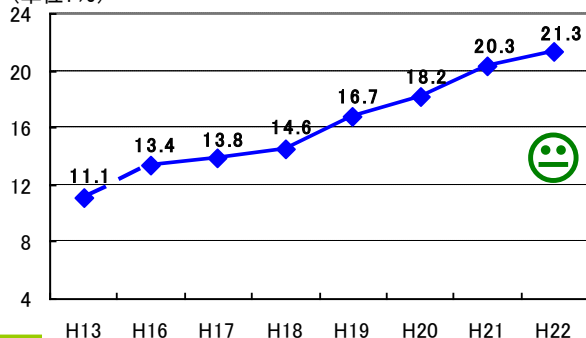
環境指標	単位	指標区分	基準値(H13)	実績値(H22)	目標値(H22)	進捗よく度及び対基準値比
一般廃棄物総排出量	t	↓	858,257	686,459	810,700	◎ -20.0%
一般廃棄物市受入量	t	↓	574,021(H20)	497,130	470,000(H27)	◎ -13.4%
一般廃棄物再生利用率	%	↑	11.1	21.3	24.6	△ 92.4%
一般廃棄物市最終処分量	t	↓	155,644	69,762	51,600	△ -55.2%
産業廃棄物発生量※	千t	↓	2,896	2,718(H20)	2,744	◎ -6.1%
産業廃棄物再生利用率※	%	↑	28.5	43.7(H20)	32.0	◎ 53.3%
産業廃棄物埋立処分量※	千t	↓	138.0	116.4(H20)	68.0	× -15.9%

※産業廃棄物の実績は5年程度に1回把握しており、最新の実績は平成20年度になります。

一般廃棄物最再生利用率の推移

平成22年度は21.3%であり、目標達成していないものの、増加傾向

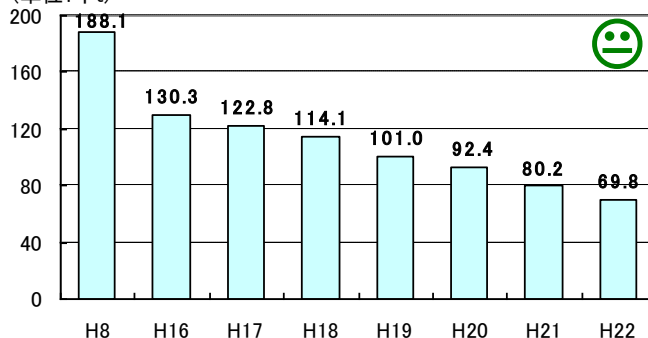
(単位: %)



一般廃棄物最終処分量の推移

一般廃棄物総排出量の減少、リサイクルの取組などに伴い、ピーク時(平成8年度)の約40%にまで減少

(単位: 千t)



Action (改善・見直し・更なる前進)

大型ごみリユースのモデル実験を開始

大型ごみとして出されるタンス、棚、テーブルなどの家具を分別収集し、そのうち、リユース(再使用)可能なものはプロの家具職人による修理のうえ、展示・販売しています。

イラスト

KYOTO エコマネー

市内のコーヒーチェーン店等16社88店舗のご協力のもと、マイボトルの持参でポイントが貯まる「KYOTO エコマネー」を創設



【トピック】「都市油田」発掘プロジェクト 生ごみと紙ごみからアルコール燃料！

市内から排出される生ごみと紙ごみを機械選別後、酵素と酵母により同時糖化発酵させ、蒸留設備等によりエタノール(濃度99.5%)を製造します。ごみ1トンあたり約60リットルの製造が可能で、自動車や暖房、発電等での実用化に向けた検証を行います。

平成23年度から2箇年で、京都市が日立造船(株)及び熊本大学と共同実施します。

イラスト

長期的目標5 すべての主体の知恵と工夫と行動で環境を支えるまち・京都

Plan（計画・目標）

今日の環境問題の多くは、日常生活や通常の事業活動に伴って生じる環境への負荷が原因の一つとなっていることを認識し、そのあらゆる場面に環境配慮の考え方を織り込むとともに、地域社会を構成する市民、事業者、行政などのすべての主体が、それぞれの責務や役割のもと、知恵を出し合い工夫しながら連携し、自主的・積極的な行動で環境を支えるまちづくりを推進します。

基本施策

5-1 環境教育・学習の推進

5-2 環境保全活動の促進

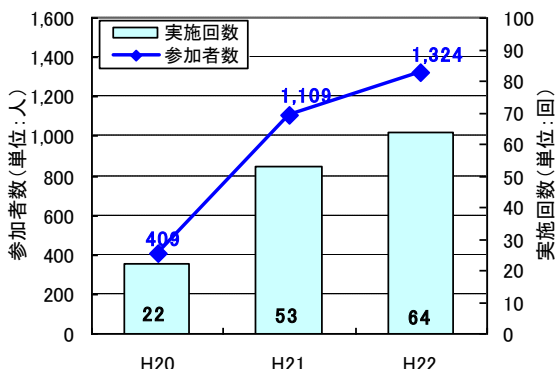
5-3 広範な主体の参加と環境コミュニケーションの推進

5-4 環境関連産業の育成と技術開発の推進

Do（実施）

環境施設見学会「ごみ減量エコバスツアー」

市民のさらなるごみ減量や分別・リサイクル意識の高揚を図るため、クリーンセンターや資源リサイクルセンターなど、ごみ処理・再資源化施設の見学会を開催しています。



みやこ

京エコロジーセンターに行ってみよう

京エコロジーセンター（略称：エコセン）は平成9年12月に開催された地球温暖化防止京都会議を記念して設立し、平成24年度で開館10周年を迎えます。エコセンは、市民の皆さんに環境学習と環境保全活動の拠点として活用されています。



京エコロジーセンターのキャラクター「ちきゅまる」

見て、触れて、感じる「体験型展示」

1階、2階の展示コーナーでは、地球規模の環境問題から、日常生活に関わるごみ減量や電気使用量削減の知恵まで、体験しながら学べる展示があります。

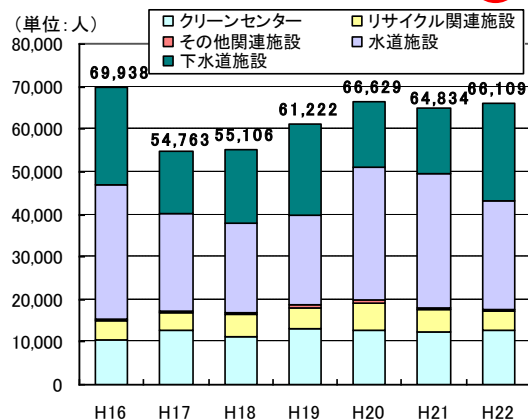
こどもエコライフチャレンジ(小学校高学年対象)

未来を担う子どもたちが、地球環境について学び、夏（冬）休み期間中に家族と相談しながら「子ども版環境家計簿」をつけることで、自分のできることに気づき、省エネルギーをはじめとする「環境に配慮した生活」（エコライフ）の定着を目指すものです。夏（冬）休みの前後に学習会を行っています。



環境関連施設の見学者数の推移

年間6万人以上の市民が見学に訪れています。



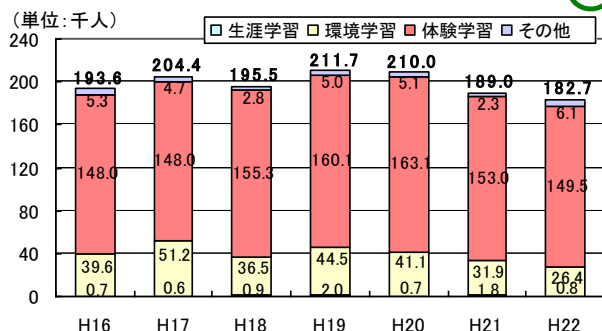
主な環境指標の推移

Check (点検)

環境指標	単位	指標区分	基準値 (H16)	実績値 (H22)	目標値 (H27)	対基準値比
環境保全活動プログラム参加者数	人	↗	193,617	182,719	—	-5.6%
人材育成数	人	↗	96	201	—	109.4%
環境関連施設利用者数	人	↗	75,815(H17)	68,881	—	-7.2%
こどもエコクラブ参加団体・参加者数	参加団体数	↗	18	9	—	-50.0%
	参加者数	↗	779	840	—	7.8%
KES 認証取得(保有)件数	団体	↗	389	1,387	—	256.6%
エコイベント登録数	件	↗	15(H22)	15	100	—

環境保全活動プログラム参加者数の推移

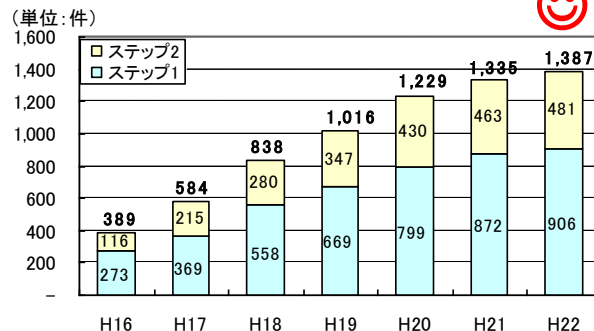
平成 22 年度の参加者数は 182,719 人で、前年度から約 6,000 人減少しました。



京エコロジーセンター、青少年科学センター、青少年活動センター等が実施する環境学習・生涯学習に参加した人数を集計しています。

KES 認証取得(保有)件数の推移

平成 22 年度末までに 1,387 件認証しており、年々増加しています。



KES (KES・環境マネジメントシステム・スタンダード) は、企業等の経営に当たって、省エネ・省資源、ごみ減量、温室効果ガスの削減等、環境への負荷を低減するための仕組みです。

Action (改善・見直し・更なる前進)

環境月間(6月)の取組

右京区制 80 周年記念事業・右京区環境パートナーシップ事業
右京ふれあい環境ひろば in 太秦映画村

環境にやさしい生活について気づいていただくため、小中学生の環境への取組発表や東映太秦映画村の御協力のもと、『江戸時代にタイムスリップ』した内容で、環境学習を実施しました。

江戸時代はリサイクルを徹底し、いかにごみを出さない社会であったかを分かりやすく解説する内容でした。



リユース食器を使ってごみ減量!

「お試しキャラバン」を展開しました

リユース食器をイベント会場に持ち込み、実際に来場者や出店者に使ってもらい効果や魅力を PR しています。

【実績】

京都特B級グルメフェスティバル

使用食器数: 1 万 4 千 (枚・個)

45 リットルごみ袋で **140 袋分** のごみ減量効果

京朱雀市場「鍋まつり」

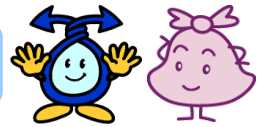
使用食器数: 3 万 3 千 (枚・個)

45 リットルごみ袋で **530 袋分** のごみ減量効果





ご存知ですか 市の取組



EVカーシェアリングをご体験ください

次世代自動車の普及促進事業の取組の一環として、電気自動車（EV）のカーシェアリングを行っています。

平成 23 年度は、市民の皆様が日常的に御利用いただくとともに、新たに観光で京都に来られた皆様にも宿泊施設を拠点としたカーシェアリングを行いました。

【平成 23 年度実績】

貸出車両 三菱 i-MiEV, 日産リーフ 平日：5 台, 土・日・祝日：6 台

貸出場所 京都市御池駐車場（ゼスト御池） 他 市内に 4 箇所

充電施設の紹介（京都市内に 128 箇所：平成 23 年 12 月時点）

区役所, 市体育館, 宝が池公園運動施設, 大覚寺, 上賀茂神社 など



詳しくは、市民しんぶんやホームページでご確認ください。 [京都市 EV 検索](#)

お問い合わせ先：環境政策局 環境管理課 TEL:075-213-0930

環境施設見学会「ごみ減量エコバスツアー」

市民のさらなるごみ減量や分別・リサイクル意識の高揚を図るため、クリーンセンターや資源リサイクルセンターなど、ごみ処理・再資源化施設を見学するエコバスツアーを開催しています。

オーダーメイド型エコバスツアー

- ◆地域団体・グループ単位で実施
(ごみ減量に関心のあるグループや地域団体ならどなたでも可)

一般公募型エコバスツアー

- ◆行政区単位で実施
(当該区在住の小学生以上の方)

お申込・お問合せは各区役所・支所内のエコまちステーションへ



生ごみ・落ち葉等堆肥化活動助成

地域における総合的な環境行政の拠点窓口「エコまちステーション」を区役所・支所内に開設

地域における自主的な清掃活動、使用済てんぷら油の回収やコミュニティ回収等のごみ減量・リサイクル活動への支援、ごみの分別に関する相談、地球温暖化対策の普及啓発等の拠点となる窓口を区役所・支所内に開設しています。

こんな時は、「エコまちステーション」にご相談ください。

- ◆資源ごみの出し方、分別方法を知りたい。
- ◆資源物回収拠点（マップ）を知りたい。
- ◆蛍光管の処分方法を知りたい。
- ◆粗大ごみ処理手数料券を購入したい。
- ◆自治会で一斉清掃をするので清掃道具を貸してほしい。 など

市民の皆様との共汗の
輪を広げる取組をさらに
推進します!



相談を受ける様子

コミュニティ回収制度

町内会やご近所のグループなどによる自主的なごみ減量・リサイクルの取組を支援するため、古紙や缶・びんなどの資源物を地域で集団回収していただく「コミュニティ回収制度」を実施しています。お知らせビラやポスターの作成等に必要な費用の一部を助成しています。

【平成 23 年度の助成額】

回収品目	
①古紙類	新聞を中心して、雑誌、段ボール、紙パック、雑紙など
②古着類	古着、古布
③缶類	アルミ缶、チール缶
④びん類	ワンウェイびんに限ります。 ※一升びん、ビールびん等のリユースびんは、購入店・酒販店や市の回収拠点までお返しください。
⑤その他	ペットボトル、小型金属類 など

回収品目	助成額
①のみ	4月申請：10,000円
	5～6月申請：7,500円
	7～9月申請：5,000円
②～⑤のうち 2品目	10～12月申請：2,500円
	1～3月申請：1,500円
	※翌年度以降の年額は10,000円

回収品目	助成額
①と	4月申請：15,000円
②～⑤のうち 1品目以上	5～6月申請：11,500円
	7～9月申請：7,500円
②～⑤のうち 3品目以上	10～12月申請：4,000円
	1～3月申請：2,000円
	※翌年度以降の年額は15,000円

環境教育に関する市発行物の紹介

小学4年生用ではごみ問題を中心とした内容、小学5年生用では地球環境問題を京都の自然・環境・わたしたちのくらしの切り口から考える内容、中学生用では環境規模で起こっている環境問題と私たちの生活について考える内容で環境教育の副読本を発行しています。

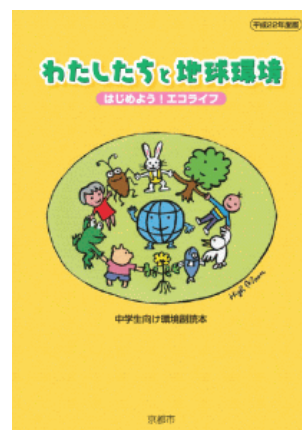
ホームページをご覧ください。



小学4年生用



小学5年生用



中学生用

これらは一例です。募集期間、助成額など詳しくは、市民しんぶんなどで随時、お知らせします。



お問い合わせ先

内 容	担当課		連絡先
地球温暖化対策に関すること	環境政策局	地球温暖化対策室	TEL 075-222-4555
低公害車やエコドライブの普及に関すること 身近な生き物の発見・報告について		環境管理課	TEL 075-213-0930
大気汚染，騒音・悪臭など公害に関すること		環境指導課	TEL 075-213-0928
ごみの減量・リサイクルに関すること		循環企画課 まち美化推進課	TEL 075-213-4930 TEL 075-213-4960
地域産材，木質ペレットに関すること	産業観光局	林業振興課	TEL 075-222-3346
公共交通利用促進に関すること	都市計画局	歩くまち京都推進室	TEL 075-222-3483
緑の保全，まちなか緑化に関すること	建設局	緑政課	TEL 075-222-3589
環境学習と環境保全活動の拠点	京エコロジーセンター		TEL 075-641-0911

京都市 環境政策局 環境企画部 環境総務課

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地 西庁舎2階

TEL: 075-222-3450 FAX: 075-222-3426

E-mail: kankyosomu@city.kyoto.jp

環境レポートはホームページでもご覧いただけます。

京都市 環境総務課

検索

平成 24 年 3 月発行 京都市印刷物 第××××××号

※この冊子は再生紙を使用しています。